

第25回日本農村医学会総会参加報告

上市厚生病院長 越 山 健 二

第25回農村医学会総会が福島県文化センターで昭和51年10月7日、8日の両日にわたって行なわれた。会場は、A・B・Cの3つの会場で、A会場では農薬と健康、健康管理、老人保健、栄養、貧血、動脈硬化、脂質代謝等に関する53演題が、B会場では母子保健、婦人科疾患、循環器、運動器疾患、農業労働と健康、健康調査、機械化と健康等54演題、C会場では出稼ぎ、寄生虫、感染症、呼吸器疾患、代謝内分泌疾患等55題の演題が発表された。シンポジウムは「農村の食生活と成人病」が、宿題報告は「出稼ぎの疫学」と題して東京医科歯科大学の柳沢文徳氏が発表した。特別講演は「脳卒中の救急及びその外科」で東北大学鈴木二郎氏が行なった。

富山県農村医学研究会から石田礼二他が「富山県農村婦人の貧血」、越山健二他が「富山県農家世帯の糖尿調査（第1報）」、豊田文一他が「農業機械騒音の聴力に及ぼす影響の研究（第2報）」、末永良治他が「カドミウム汚染米中カドミウムの除去の方法とその吸収実験について」、佐藤英雄は「農業機械災害の調査研究（第4法）」、「一自脱コンバイン災害事故の人的要因と傷害」についての5つの演題が、それぞれの会場で発表された。

これ等の発表内容は、学術総会前に日本農

村医学会雑誌第25巻3号として既に発行されているので、詳細な報告はさげたい。

私は農村医学会が発足した当時から何回かこの学会に出席しているが、いつも学会の内容や会の運営等について関心をもち、啓発されてる事が多かった。発足当時は、よく豊田学会長等と行動を共にし、北海道や四国、中国と学会参加を通して友情を深め、多くの友人、知人と交流し、医療に対する考え方や地域住民の医療を如何に高めるか、その必要性を常に新しい気持ちで肌で感じ学会のたび毎にそんな気持ちの高まりを新しくさせられたものである。

今度の学会も全国から多数の会員が参加し、天気にもめぐまれて盛会であった。

富山県から参加した人は、厚生連の人たちも含め飯坂温泉でゆっくり風呂に入って裸の話がはずんだ事も何時も乍ら印象が深かった。

人間のくらしは常に流動して止まない。衣食住は勿論、就労状況やその形態も大きく変化している。それらが健康や生命に及ぼす影響は無視出来ない。これらの流動に対応した保健養護や、医学が今後も限りなく続けられ、農村医学会の果す役割も今後益々重要であると思うのである。